

あいさつ＋（プラスワン）

「おはよう。きょうはさむいね。」

「おはようございます。学校にいたらみんなとあそぶので、すぐあたたかくなります。」

「ははは。元気いっぱいだね。」

四年生のカナのへんじを聞いて、見まもりのおじさんの顔がたちまちえがおになりました。おじさんのえがおを見ながら、ヨシトは自分もカナのようにあいさつができればいいなと思いました。

王寺町では、「あいさつ＋（プラスワン）」いうことをおこなっています。あいさつのあとに「ひとこと」をつけくわえて、いっそうなかよくなるとういううんどうです。見まもりのおじさんやきんじよの人たちだけでなく、友だちや先生とも「あいさつ＋（プラスワン）」をしようということになっているのです。

きのうも、たんにんのミカ先生がおっしゃいました。「さつき、すてきな『あいさつ＋（プラスワン）』を見つめました。ろうかにおちていたティシューケースをひろった三年生が、『これおとしたよ。かわいいケースだね。だいじなものでしょ。』と言って、一年生にわたしていたの。一年生は『ありがとう。おばあちゃんがつくってくれたの。』とおれいを言っていました。二人ともとってもすてきなえがおでしたよ。声かけやおれいのあとのひとこともとても大切なプラスワンだね。」

ヨシトも、いつもあいさつやプラスワンを言いたいと思っているのです。でも、あいさつのことばを言おうとすると顔がかあつとあつくなくて、声が小さくなってしまいます。ひとことつけくわえようとする、こんどはドキドキしてきて、口があけられなくなってしまいます。

帰りの会がおわって教室から出るとき、ヨシトはミカ先生にあいさつしま



かつげ川のゆうほう



見まもりかつどう

した。

「さようなら。……。」

はずかしくなって、今日もあまり大きな声では言えませんでした。ひとことつけくわえようとしたりけれど、やっぱりうまく言えませんでした。すると、ミカ先生が言いました。

「ヨシトさんの あいさつする ときの えがおは、とっても すてきだね。見ていて 先生も うれしい 気もちになるよ。ヨシトさんの えがおは すてきな プラスワンのよ。」

ヨシトは とても うれしく なりました。

帰り道で、こんどこそ あいさつに ひとこと つけくわえて 言いたいなあと思っ たヨシトは、なんて 言おうか かんが 考えながら 帰りました。

○ ヨシトが、カナのように あいさつを したいと思ったのは どうしてでしょう。

○ ミカ先生のことを きいて とても うれしく なった ヨシトは、どんなことを 思っていたでしょう。

○ あなたなら、あいさつや 人に 声を かける とき、どんな ひとことをつけくわえますか。考えて みましょう。